
Family

ペルソン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F a m i l y

【Nコード】

N 6 2 8 9 J

【作者名】

ペルソン

【あらすじ】

朝起きたら妻が死んでいる。
それを冷静に対処する僕。
その結末は？

頭を抱えながら目が覚めた。頭痛がする。
昨日はやけに喧嘩が酷かったらしい。

僕には、妻と3歳になる男の子、勝志^{かつし}がいる。
僕たち夫婦は、結婚1年目までは、とても仲が良く、
近所の人たちからは、仲良し夫婦と
言われるほどだった。

だがしかし今の2人は、いつも喧嘩ばかりでその度に
僕が手をあげて喧嘩が終わっていた。

朝、僕は2階から降りてきて1番に目に映ったもの
腹には包丁が刺さっていて、身体中血だらけの妻だ。
僕はその妻を見て昨晚のすべてを悟った。
いつかこうなるんじゃないかと
思っていたことだったから分からないが
なぜか、冷静にその妻を見ていた。

妻との喧嘩は最初は些細なことからだった。
妻の作る料理が冷凍食品ばかりになったり、
近所の人から妻が浮気をしているだの、
いろんな噂が流れ出したことからだ。
その噂のことで僕は真実を確かめたくなくなった。

毎日、妻の行くところを見つからないように
追いかけてついていった。すると、
10日ほど経ったときにやっと姿を現した。
それは、僕が働いている金融会社の部下、山下^{やました}だった。

それを見てから僕は妻を信じきれなくなり妻が行くところに必ず「今日うちの妻がそちらに向かいましたか？」などと確認の電話をするようになった。

確認の電話のことで昨晚喧嘩をしたのだった。

妻は「いい加減確認の電話するのやめてよ！」と、言ってきた僕はそれに対して「ふん。お前が行くところ自体怪しいんだよ！」と、怒鳴り散らかしてしまった。

すると妻は、台所から包丁を持って来て

「こんな生活するぐらいなら死んだほうがましよ！」

こういつて手首に包丁を当てた。それを見て僕は、

「やめろ！違うんだ！死んでほしくなんかない！」

といつて包丁の奪い合いになっていた。

そして、奪い終わったあと妻が僕を押し倒してきた。

それに怒った僕はついつい妻を刺し殺してしまった。

朝、冷静な僕は、勝志に

「お母さんは遠くに行ってしまった」と嘘をつき、妻の死体を床の下に埋めてしまった。

それから数年後

いきなり勝志が改まって

「お父さんずっと嘘ついてたでしょ。」

といつてきた。僕は

「なんだ？どうした？」と聞き返すと

勝志は、

「だつてお父さんずっとお母さんかるってんだもん。」

（後書き）

この小説が好評だったら次を出したいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6289j/>

Family

2010年10月14日19時47分発行